



道路の脇には打ち上げられた漁船が



地場産業の復興が地域を勇気づける



市街地の瓦礫はすっかり取り除かれたが…



被災地の海岸線は、どこも同じ景色が

被災地の復興はどのようにして

1月8日、名取市の成人式取材の帰り、閑上地区を訪れた。仙台東部道路名取I.Cを降りてすぐに、津波で打ち上げられた漁船が散在し、爪痕はいまだに残っている。市街だった地域に入ると、破壊された住宅は取り除かれてはいるが、かえってそれが震災の大きさを物語る。ここに住んでいた人たちは命を落とし、一命を取り止めたとしても仮設住宅での生活、生活再建への険しく遠い道のりが待っている。

私たちは医療や福祉の現場で、仮設住宅の健康相談会などで、被災者の声を聞き、復興が住民本位で進められているか見守っていかなければならない。

1/8名取市閑上地区



フォトスケッチ



被災地を見降ろす高台では、祈りをささげる人が

希望の1本松



高田松原一本松の夜明け（岩手県陸前高田市）

東日本大震災で、高田松原の数万本の松が、ほぼすべてなぎ倒される中で、奇跡的に1本だけ生き残った。樹齢270年、まっすぐに強く伸びる松の木の姿は、復興を願う多くの人々を勇気づけた。
(撮影 神馬 悟)